

山口県の地質物語 - 7 : 山口県の主要地質系統表

山口県全体の地質の構成と性質，その形成発達史などを概観するためには，表1の山口県の主要地質系統表が便利である。これは左欄(地質年代×10⁶年)に地質年代尺度(ICS, 2014による改訂：本シリーズ-5参照)をとり，中欄で県内の大きな地質単位(山口県の地質概要図の区分：本シリーズ-6参照)とより詳細な地質区分(15万分の1山口県地質図の区分)との関係を示しつつ，それらを形成年代別にふり分けている。このような年代層序区分のある地質単位や地質区分を地質系統とっている。

表1と山口県の地質概要図(本シリーズ-6参照)では，地質単位を同じカラーで表示しているのので，両図表を比較検討することによって，各地質単位の空間的・時間的な関係，地史，形成発達史などが読みとりやすくなっている。

5億年間に及ぶ山口県の地質の歴史は，表1右欄(山口5億年史)に要約される。左端の3つの太い矢印は形成発達史の大きな流れを示し，下から上へ①付加体の形成・沈み込み型造山運動(4.5億~1.45億年前：オルドビス紀-ジュラ紀)，②火山-深成活動(1.1億~0.3億年前：前

期白亜紀-古第三紀漸新世)，③島弧活動(2000万年前以降：新第三紀中新世-現在)の時代に区分される。①と②の時代には，日本列島はまだユーラシア大陸の東縁に位置していた。2000万~1500万年前に日本海が開いて，島弧としての日本列島が形成され，③の活動が現在も続いている。

詳しくは，『西村ほか，2012，山口県地質図 第3版(15万分の1)および同説明書。山口地学会，167p.』を参照されたい。

(文責：西村祐二郎)

表1 山口県の主要地質系統表 (西村ほか, 2012 を一部改変)

地質年代×10 ⁶ 年		おもな地質系統				山口5億年史
新 代	第四紀	完新統 真行砂層 圃砂礫層 徳佐層	K-Ah → AT → Aso-4 → Ata-Th →	東岐波砂層 郷下層 陶層 宇部火山灰層 向井関層 吉南層 鋤銭司礫層 黒河内礫層 草江シルト層	新 期 青野火山岩 新 期 阿武火山岩 古 期 下関火山岩 古 期	↑ (フライヒン海プレート沈み込み) ↑ (日本海の形成) ↑ (火山-深成活動) ↑ (低圧型変成作用) ↑ (陸棚相の形成) ↑ (付加体の形成・沈み込み型造山運動) ↑ (高圧型変成作用)
	第三紀	鮮新世 後期 中期 前期	新・古第三紀堆積岩 須佐層群・西市層・油谷湾層群 日置層群・芦屋層群・下片倉層・幡生層 宇部層群	高山斑れい岩 田万川花崗岩	山陰火山岩 山島火山岩 田万川火山岩・油谷湾火山岩	
	中生代	白垩世 後期 前期	中生代火山岩 阿武見層群 周南層群 関門層群 堆積岩優勢層	中生代深成岩 山陽帯の花崗岩類 廣島期 周南期 関門期	中生代半深成岩 石英斑岩，花崗斑岩，斜長斑岩，花崗閃緑斑岩，ひん岩 領家花崗岩 新期 古期	
	中生代	侏羅紀 後期 前期	中生代陸棚型堆積岩 豊西層群 豊浦層群	中付堆積岩 中付堆積岩 鹿足層群	中生代変成岩 低圧型 領家変成岩(玖珂層群)	
古 代	石炭紀	後期 前期	長門構造帯構成岩石 豊東層群 辻並層群 台層群 東平野層群 連華変成岩(古期複合岩類)	古生代石灰岩 秋吉石灰岩・半田石灰岩・蔵目喜石灰岩	古生代堆積岩 大田層群・常森層・宮野層・飯ヶ岳層 別府層・阿武川層群	↑ (高圧型変成作用)
	デボン紀	後期 前期			中生代変成岩 高圧型 周防変成岩(都濃層群)	
	シルル紀	後期 前期				
	オルドビス紀	後期 前期				
先カンブリア時代		<p style="text-align: center;">広域テフラ</p> <p>K-Ah：鬼界アカホヤ火山灰=7300年前 AT：始良Tn火山灰=2.9-2.6万年前 Aso-4：阿蘇4火山灰=9.0-8.5万年前 Ata-Th：阿多島浜火山灰=25-23万年前</p>				

(左欄の数値年代は ICS, 2014 による)